



園だより2月号



令和8年2月1日
社会福祉法人 愛光会
ハローこども園
浜松市中央区下江町 522
電話(053)425-5586

2月の行事予定	
1	日
2	月 体操教室
3	火 節分
4	水 親子ひろば
5	木 音楽教室 身体測定 (めだか・りす組)
6	金 O. 1歳児クラス別懇談会 (14時から)
7	土
8	日
9	月 身体測定 (うさぎ・ひよこ組)
10	火 英語であそぼう (つき・ほし組)
11	水 建国記念の日
12	木 身体測定 (つき・ほし組)
13	金
14	土 1年のまとめ 職員会議
15	日
16	月 体操教室
17	火
18	水 避難訓練 親子ひろば
19	木 音楽教室 園長会
20	金 お作法教室 (つき組)
21	土
22	日
23	月 天皇誕生日
24	火 英語であそぼう (つき・ほし組)
25	水 以上児誕生会 親子ひろば
26	木
27	金 お別れ遠足 園外保育の日 (お弁当) 保育料口座引き落とし日
28	土 新入園説明会
3月3日(火)ひなまつり会	
3月6日(金)お別れ茶会(ほし・つき組)	
3月14日(土)卒園式	
3月27日(金)普通保育終了	
3月30日(月)31日(火)家庭保育の日	

まだまだ寒い日が続いますが、園には毎日子ども達の元気な声や、笑い声があふれ、まるで一足先に春が来たように感じられます。例年に比べ暖かいですが、まだまだ寒い日が続きますので、手洗い、うがい等の予防をしっかり行い元気に過ごして行きたいと思います。

ひよこぐみ

～駒作り～
紙皿にシールを貼りました。
指先を使って、上手に貼れたね。



上手に回るかな？

それぞれのクラスで、お正月遊びを楽しんでいます。

☆お知らせ☆



☆0.1歳児クラス懇談会について

6日(金)14:00～0.1歳児懇談会を予定しています。お忙しい事だと思いますが、ご都合をつけて参加して下さるようにお願いします。

☆お別れ遠足について

2月28日(金)のお別れ遠足は、ほし・つき組で行きます。詳細は今後配布する手紙をご覧下さい。

☆教材注文について

1月28日(水)に来年度の新年度教材注文の用紙を配布しました。締め切りは2月4日(水)です。事務所にご提出ください。

集金は4月1日(水)からとなります。
注文用紙のみの提出をお願いします。

☆兄弟の送迎について

朝夕の送迎の際は、兄弟それぞれの受け渡し場所で、保護者から職員へ、または職員から保護者へ、一対一での引き渡し、引き取りをお願いします。また、朝の登園後引き渡すまで、及び降園時引き取り後は、保護者の管理下で危険がないように見て頂くよう、よろしくお願いします。

☆家庭保育の日

3月30日(月)、31日(火)は、家庭保育の日になっています。ご協力をよろしくお願いします。

ハローこども園の学び

～非認知能力を育む～

近年、体操、水泳、サッカーなどの習い事が盛んになっています。これらの活動は、活発に体を動かす機会となりますが、遊びではなく特定の運動しか行っていないとしたら、多様な動きを身に付けていくことが難しくなります。また、自発的な遊びにもつながらない可能性があります。幼児期に、様々な運動遊びを大切にすることは、主体的に遊びを広げると同時に、多様な動きを身に付けることにもつながります。

また、体を動かす遊びや全身を動かす運動遊びは、何事にも意欲的に取り組む態度を養い、健やかな心の育ちも促す効果があります。子供たちが、積極的に体を動かすことで、「やる気」「我慢強さ」「友達関係が良好」「社交的」などの非認知能力も養うことができるのです。

宮野恵理子

縄跳び遊び

つき組さん、ほし組さん、うさぎ組さんは、自由遊びの時間に、縄跳びカードの技に挑戦しています。つき組さんの中には、すでに、縄跳びカードの2枚目に進んだ子供も少なくなく、毎日意欲的に新しい技に挑戦しています。以下の写真は、朝の運動の縄跳びタイムに、持久飛びに挑戦しているつき組さんやほし組さんです。

友達と一緒に跳ぶ子供たち

最後まで、頑張った友達に「すごい！」と言って、拍手を送る姿からも、頑張る友達を敬う気持ちが伺えます。



ボールのコーナーでは、つき組さんはドリブル、うさぎ組さんやほし組さんは、その場でボールつきをしています。鉄棒のコーナーでは、うさぎ組さんやほし組さんは、前回りや足抜き回り、つき組さんは逆上がりを練習しています。つき組さんにあこがれて、うさぎ組さんやほし組さんの子供でも、ドリブルや逆上がりに挑戦する子供もいます。



サーキットでは、運動技能を高めるだけでなく、自分たちが運動するために必要な物を自分たちで用意することで、どのように道具を置けば活動がしやすいのか考える機会ともなり、主体的な学びにつながって行きます。用具などの準備や片付けを、友達と一緒に協力して行う態度を身に付けながら、運動遊びが発展していくのです。

～学びに向かう力、人間性づくりを～

協調性は、年齢が上がるごとに少しづつ育っていきます。

うさぎ組の年齢になると、少しづつ友達との関わりも増え、先生や友達を意識して関わるようになっていきます。食べ物やおもちゃなど「物」に向いていた興味が、自分以外の人や子ども向けの番組に出てくる好きなキャラクターなど「人」へと向かい始めます。また、集団生活の中でルールがあることを覚え、ルールに沿ってゲームをしたり、集団遊びに取り組んだりすることもできるようになります。

そして、つき組の年齢には、言葉によるコミュニケーションもだいぶ活発になり、相手を思いやる気持ちも芽生えてきます。この時期に集団の中で多くの経験を積み、積極的に先生や友達と関わることで、協調性はよりよくはぐくまれていきます。そんな発達段階に合わせて、つき組では互いに思いやり、常に協力して一つのことをやり遂げることを目標にしています。

宮野恵理子

お泊り保育

今年も、奥山方広寺で、お泊り保育を行いました。夜の探検では、友達と協力して、キーワードになる言葉をつなぎ合わせて、宝が隠されている場所を突き止め、友達と協力して宝を手にしました。暗いお寺の中を歩くのは、子供たちにとってとても怖いことですが、友達と一緒になら、勇気が湧きます。

日中は、グループでチェックポイントを探し、それぞれのポイントで記念写真を撮りました。



運動会

組体操

組体操の号令は保育教諭が掛けるのが常ですが、今年の練習では、子供が中心になって号令をかけ、主体的に練習が行われていました。

プリッジ



学習

書く・話す

2学期から、学習が始まりました。はじめは、リトミックで言葉のリズムを楽しんだり、友達と協力して平仮名リレーで、覚えた平仮名を確認したりしました。現在は、正しい鉛筆の持ち方や書き順で、平仮名を書く練習をしています。また、友達の前で、大きな声で話をしたり、友達からの質問に答えたり、話す練習もしています。



「ひらがなリレー」では、ばらばらに並べられている平仮名から、一枚選んで順番に並べ、次の友達にバトンを渡します。互いに声を掛け合いながら、協力して平仮名を並べ、負けても、友達を責めるどころか、最後まで頑張った友達を褒めていました。

パラバルーン

毎年、パラバルーンの中に職員が1～2人入って、全体のバランスを保っていましたが、今年は「子供だけで頑張る。」と、大人の手を借りずに頑張りました。



ハローこども園の学び

～非認知能力を育む～

ハローこども園は、同年齢でクラス編成していますが、様々な場面で、異年齢でのかかわりを持つようにしています。毎日の自由遊びの中では、めだか組（0歳児）やひよこ組（1歳児）の子供たちが、外に出て来ると、りす組（2歳児）以上の子供たちが集まって来ます。0歳児の周りに集まって来て、あやす子供もいれば、1歳児の子供たちの靴を熱心に履かせる子供もいます。大きい子が小さい子の手を引いて歩いたり、抱っこしたりする姿も見られます。

また、主活動の際にも意図的に異年齢グループの活動を組んでいます。異年齢の交流の中では、自然に社会性や協調性、思いやりの心が育まれていきます。

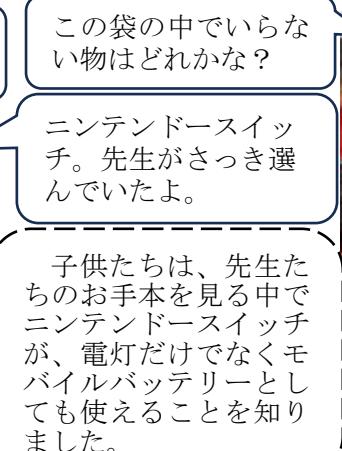
具体的な活動の様子を例に、以下に紹介します。

宮野 恵理子

防災訓練

9月の防災訓練では、その場に置かれている物の中で、3つだけ選んで逃げるとしたら、何を防災バックの中に入れるか、うさぎ組・ほし組・つき組の異年齢グループで取り組みました。

つき組さんを中心に、話し合いながら、避難所で必要と思われるものを選びました。



4歳になると、我慢したり許したりという寛容な心を覚えます。そして、5歳になると自分の利益を考ずに相手のことを考えたり、優しさしい気持ちや相手を大切に思う気持ちをもったり、感謝したりする慈しむ心が育ちます。

異年齢グループでの子供たち同士のかかわりを見ていると、つき組の子供たちがみんなのことを考えながら、優しく声掛けをする姿が見られます。また、うさぎ組さんやほし組さんの子供たちも、時として自分の思いを通そうとした際、つき組さんに声を掛けられ、わがままな態度を改めようとする姿も見られます



りす組さんは、自分たちが作った作品を
うさぎ組さんに見てもらいにきました。



～非認知能力を育む～

8月初旬は、夏野菜をたくさん収穫しました。先月号でも伝えさせていただいた通り、子供たちは、畑の土づくりから、草取りまで、力を合わせて野菜づくりに取り組んできました。夏休み前には、それらの野菜を使ったクッキングを楽しみました。クッキングでは、普段使わない慣れない道具を使用しますが、たとえうまくいかなくても、粘り強く取り組む姿が見られました。また、友達とひとつのことを同じ目標に向かって取り組むことで、協力し合い、共に達成感を味わい、喜びは倍増します。

子供たちは、友達と一緒にい、しかも自分たちで育てた野菜をクッキングできることで、やる気が湧いてきます。そうした共同作業の中では、意見が食い違うこともあるかもしれません、そんな中で、感情をコントロールできるようになると同時に相手を認め合うことができるようになっていきます。また、野菜という教材は、洗って切って、種を取ったり、皮をむいたりしながら、野菜の素材自体の違いを実感しやすく、非認知能力を伸ばすのにとてもよい教材です。

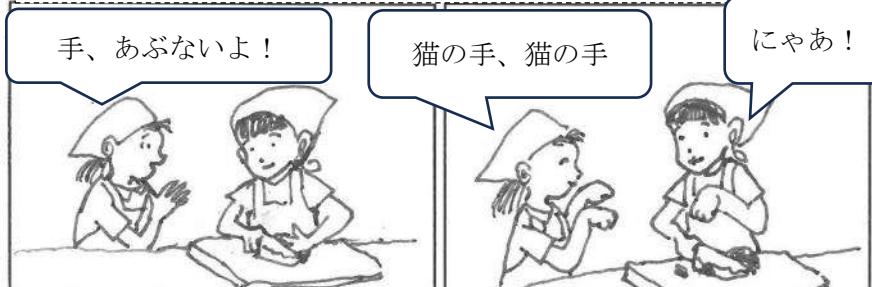
宮野 恵理子

夏野菜

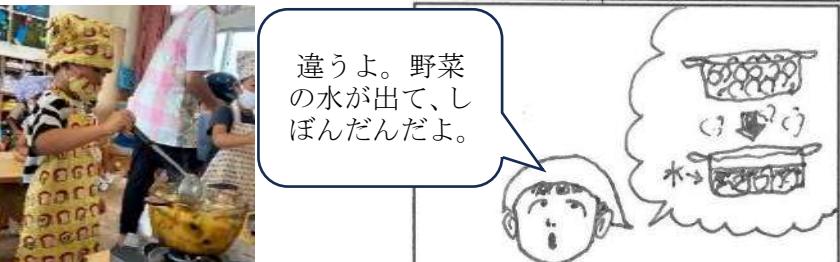
トマトに、ピーマン、ナス、ズッキーニ etc....今年も、たくさん夏野菜を収穫し、子供たちが大好きな料理に変身させました。みんなで、料理して、みんなで食べて、おいしい時間を共有して、みんな笑顔いっぱいです。

カレー

協力してたくさんの夏野菜を切りました。包丁で手を切らないように、合言葉を言いながら、慎重に切っていました。



みんなで切った野菜は、お鍋いっぱい！火をつけると、お鍋の中の野菜は、どんどん変化していきます。



ピザパーティ

餃子の皮をピザの生地にし、その上につきぐみさんが、夏野菜とチーズをたっぷりに乗せて、ピザづくりに挑戦！うさぎ組さん、ほし組さん、先生方もふるまってくれました。



トマトに。ピーマン、ソーセージもあるね。



子供たちはクッキングをする中で、いろいろな科学的な発見をします。

自分が発見したことや、考えたことを互いに出し合う中で、友達の考えを聞き、自分の考えを深めています。

また、うさぎ、ほし、つき組の食を通して異年齢でのかかわりの中では、小さい子供たちは、お兄さんお姉さんに、憧れを持ち、なりたい姿を思い描き、目標を持ちます。大きい子供たちは、小さい子供たちを支えようとする思いやりの心が育ちます。

～非認知能力を育む～

夏、真っただ中で、毎日日差しの強い日が続いています。そんな中でも、子供たちは過ごしやすい時間帯には、元気よく外で遊んでいます。

そんな夏の園庭で、子供たちは、夏の太陽の力を学んだり、夏の恵みを喜んだり、夏の大変さを味わったりして、毎日夏を体感しています。

今月は、そうした夏の体験の中での子供たちの発見や喜び、頑張りの中でのかかわりの様子を紹介します。

宮野恵理子

ソーラークッカー

浜松市の環境ボランティアの方を招いて、子供たちは、どんなものが太陽の熱を吸収するのかを学びました。その後ソーラークッカーでのホットケーキのクッキングを通して、太陽の熱の力に感動しました。

園庭で一番熱いものは？

棒よりタイヤの方が熱いよ！

つるつるおやまも熱いよ。

白いところより、緑のところの方が熱いよ。



園庭で一番冷たいものは？



やっぱり、水が一番冷たいね。

ぼくも、手伝うよ。

先生、危ないやつでやって！
(スコップで掘って欲しいということ。)

やっぱり、だめだ。

こんなもん
で、どう？

子供たちは、いろいろな色の物を触る中で、色の濃いもの、特に黒いものは熱くなるということを発見しました。だから、黒いお鍋が一番早くホットケーキが焼けるのですね。

触ってごらん。

太陽の熱が集まるんだって。

あちっ！

お鍋が黒いと
よく焼けるんだね。



力をあわせたから、
抜けたんだね

根が固く張る草を抜くことは、3歳児の子供たちにとっては、大変なことです。

それでも、みんなでいろいろ考え、協力して抜くことができました。

生まれてから、たった3年の小さな子供友達が友達と話し合って、一つのことをやり遂げる姿に感心しました。

うさぎ組さんも、ホットケーキを頂きました。

お日様の味がするね。

あまい！



子供たちは、自分の考えを相手に伝えたり、相手の意見を聞いたりする中で自分の考えを深め、コミュニケーション能力を高めていきます。

草取り

美味しい夏野菜を収穫するために、うさぎ組の子供たちも草取りを頑張っています。夏の草は、根が固く張って、なかなか抜けません。

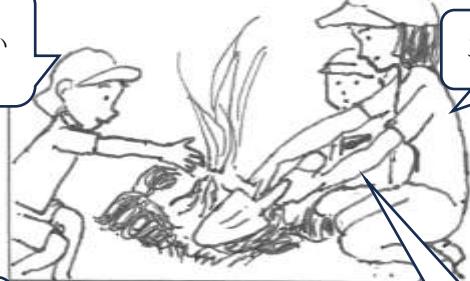
うんとこしょ！
どっこいしょ！

夏は草が
すごいね。

抜けないねえ。

根っここのとこを、
掘ってみよう。

冬はない
のにね。



いいよ！

抜けた！



根が固く張る草を抜くことは、3歳児の子供たちにとっては、大変なことです。

それでも、みんなでいろいろ考え、協力して抜くことができました。

生まれてから、たった3年の小さな子供友達が友達と話し合って、一つのことをやり遂げる姿に感心しました。

ハローこども園の学び

~非認知能力を育む~

こども園における子供たちの生活の多くが「環境」と関わっています。登降園・給食・散歩・遊び等の毎日の園生活は、地域の自然や草木花、水、食べ物、電気、紙、ごみ等とのかかわりやつながりがあります。

毎年、子供たちが夏野菜を育てるために畑を耕して苗を植えることもその一つです。園での生活や活動を「環境学習・教育の観点」で見直すことでこども園での環境学習・教育の第一歩となると考えています。これから日本の日本を担っていく子供たち一人一人が環境を意識した行動ができるように育っていってくれることはとても大切なことです。こども園での生活の中で、友達と協力し合いながら、日常的、継続的に環境を意識した活動に取り組むことで、将来的に日本を、そして地球を守っていこうといった気持ちの素地を少しでも、養うことができればと、思っています。

宮野恵理

昨年度から、子供たちは、ごみを減らし、畑の土を肥やすために給食のフルーツの皮や、玉ねぎやトウモロコシをむいた皮などをコンポストに入れて、栄養たっぷりの土づくりを行ってきました。その土を混ぜて畑を耕し、夏野菜の苗を植えました。そして、空になったコンポストを使って新たに肥えた土づくりに取り組んでいます。そんな活動の中で、子供たちはいろいろな発見や友達同士の関りを通して、成長していきます。

また、活動の中では、肥えた土づくりに役立っているいろいろな虫たちにも出会いました。



「ケラは、自分で家を作れる。」と思ったMさんだけど、ケラのために協力してトンネルを掘っているみんなに、そんなことを言ったら、がっかりさせてしまうと考えた思いやりのあるMさんでした。

大好きなFちゃんを喜ばせようと思って、Fちゃんに内緒でダンゴムシを探していた愛がいっぱいのRちゃんでした。

大きくなつてね！

脇芽を取ると、トマトが大きくなるよ！

いい土になるように、よくかき混ぜないと



ハローこども園の学び

～非認知能力を育む～

子ども達は、園内の身近な自然の美しさや不思議さに触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、関心をもつようになります。身近な動植物に愛着をもって関わる中で、生まれてくる命を目の当たりにして感動し共感し合い、生命の不思議さや尊さに気付き、自然への敬意が芽生え、命の大切さを知ることを通して、互いに思いやりを持って接するようになります。

この夏は、園庭で子供が観察したり、発見したりする中で、友達と感動を共有し合ったり、協働して目的を果たしたりする姿を紹介します。

宮野恵理子

シジュウカラが巣立ちました

昨年度のつき組が作った巣箱で、すくすくと育ったシジュウカラが巣立ちました。5月18日（日曜日）の朝、巣立ったと思われます。残念ながら、子供たちは、巣立つ瞬間を見ることができませんでしたが、2週間ほどにわたって、親が餌を運ぶ様子や、巣箱の中のヒナをが育つ様子（映像）で見ることができました。



ぼくが、赤ちゃんのときみたい。ぼくも、うまれたばかりの時、体が赤かったよ。



わあ！ 大きなお口
パパとママが、あの口
に虫を入れるんだね。

かわいい！



大きくなったね。
毛がもふもふになったね。

冬は、毛の間に空気を入
れて、もっともふもふで
丸くなるんだよ。



ほら、虫くわえてる。

赤ちゃんのごはんだね。

何回も来て忙しそうだね。

パパとママは大
変だね。

高いところで蛇
とか来ないか見
てるんだって。

赤ちゃんを守っ
ているんだね。

がんばれ！

シジュウカラは多くの言語を持つことが知られています。子供たちは、2羽の夫婦のシジュウカラが、互いに声を掛け合い、子育てを頑張る姿を身近に見て、人間のお父さんやお母さんも、同じように我が子のことを、一生懸命守ってくれていることを感じる機会ともなりました。

ハローこども園の学び

～非認知能力を育む～

昨年度は、浜松市における幼児期に育てたい力について、非認知能力も含めながら、保育・教育活動について紹介してきました。今年度は、さらに非認知能力の大切さを中心にハローこども園での具体的な取り組みを紹介していきます。まず、改めて「非認知能力」とは、知能検査や学力検査では測定できない能力を意味し、具体的には、やる気、忍耐力、協調性、自制心など、人の心や社会性に関係する力です。

認知能力	知識・技能	何を理解しているか。何ができるか。
	思考力・判断力・表現力	理解していること・できることをどう活用するか。
非認知能力	学びに向かう力・人間性	どのように社会、世界と関わり、よりよい人生を送るか。

それでは、上手に社会や世界との関り、よりよい人生を送るためには、どんな力が必要なのか、キーワードを挙げてみます。まず、目標を達成する力としては、忍耐力、意欲、自己制御、自己効力感、目標への情熱が挙げられます。また、他者と協働する力としては、社会的スキル、協調性、信頼、共感、社交性、敬意、思いやり等があります。さらに、情動を制御する力としては、自尊心、自信、楽観性等が挙げられます。

子供たちは、園生活の中のどんな活動や場面で、こうした力を付けているかを、紹介していきます。

宮野恵理子

着替え

うさぎ組さんになったばかりの子供たち。初めての園服のボタンに悪戦苦闘！それでも、「自分でやりたい。」という意欲をもって、忍耐強く取り組み、自分でできた喜びを感じる中で自己効力感も育っています。



鳥小屋づくり

令和6年度の春、つき組さんは、みんなで協力して鳥小屋をつくりました。こうした共同制作も協働する力を培います。3月になり、シジュウカラが小屋の中に巣材を運ぶ姿に感動したつき組さんでしたが、新しい命の誕生は見ることができず、卒園しました。



また、困っている友達の気持ちに共感し、手伝う思いやりのある姿も見られました。



令和7年度のつき組さんが、その後を引き継ぎ、ヒマワリの種(餌)をあげてくれました。現在、鳥小屋の中に作られた巣に卵が産み落とされていますが、子育てをする親鳥の姿や、ひなが成長する姿を見ることで、親や自然への敬意が生まれることを期待し、無事卵がかえってくれることを願っています。



愛

お腹すいた！



満足！



ご機嫌！



めだか組さんの0歳児の赤ちゃんは、お腹がすくと泣きます。担任はミルクの飲みが悪いと、心配し、「味？」「哺乳瓶？」「抱き方？」「環境？」などと原因を回避する方法をいろいろ試します。けれども、おいしそうに飲んでいる姿を見ると、それだけで嬉しくなり、お腹いっぱいになってご機嫌に遊ぶ姿を見ては喜びます。それが、「愛なのかなあ。」と思います。愛情には、様々な感情が伴いますが、愛には、執着も期待も取引もなく、ただ子供のことを想い、すべてを与えようと望みます。結局、非認知能力を育てる土台は、愛であることを感じています。成長すればするほど、愛情になりがちではあります、職員一同、子供たちに努めて愛を注ぎ、保育・教育に臨んでいきます。